

# 京橋の印刷

12月10日1991・No.81

東京都印刷工業組合京橋支部  
〒104 東京都中央区新富1-16-8  
日本印刷会館3F 電話 3552-1855

発行人  
田島弘



勝どき橋際に新築されたニチレイ東銀座ビル屋上より築地、入船・湊方面を望む

## 地球環境を護れ

副支部長 近藤正弥

人間が酸素を吸い、炭酸ガスを吐く。そして樹木が炭酸ガスを吸い、酸素を吐くという原理は良く知られている自然の営みであるが、では、その人間対樹木のバランスをどうなのか問われて見てもすぐ答えられるものではない。しかし、その道の専門家が発表したところによると、人間一人に対し樹齢三十年の木が十六本必要であるという。しかし、日本の場合環境汚染などにより、その数は三十倍から五十倍、アメリカの場合は五十倍から百倍の本数が必要であるということであった。現在の地球環境では伐採やその他の関係で大切な樹木が足りず、この地球環境を護るため植林が急務となっている。

では植林に必要な面積はどの位かというところ、北海道と九州を合わせた面積に毎年植林しないとバランスはとれないだろうという。すなわち人口の増加と環境破壊に迫っていく為には必要な面積という訳である。こうした背景の中一九九二年ブラジルで開催される「地球サミット」で論議されるテーマは「新世界環境保全戦略」が「かえのない地球を大切に」ということで国連を中心にして世界各国の政府およびNGO（非政府機関）が一堂に集まり論議する。しかし、高い理想の中で達成可能かどうか疑問もあるが、国・企業・個人が行動生活様式を改めないと、地球環境を護れないところまで来ているようだ。

# 永年勤続従業員表彰式開催 於・中央会館

## 百三十名が受彰

10月9日(水)、午後6時より、中央会館7階にて、京橋支部主催、永年勤続従業員表彰式が開かれました。司会の近藤副支部長が、本日は雨の中央区矢田区長殿、東印工組の田島副理事長殿、中央区工団連、小葉副会長殿のご来賓の方々には有難うございます。皆様ご存知のとおり、この東京の歴史は590年、天正18年に徳川家康がこの地に幕府を設けてから400年経ちました。この400年の歴史の中でも、この中央区を中心に発展して来ています。その中で地場産業として残っているのは日本橋魚河岸の跡を継ぐ築地の魚市場、そして印刷、文化発祥の地この京橋の印刷この二つが主なものとして、今に受け継がれています。この印刷文化発祥の地の歴史は詳述しませんが大変なものがあります。この伝統ある印刷業に携わる皆様方のこの表彰式というのは、これは大変名誉な事であり、我々主催者も大変喜ばしいと思います。従いましてこの表彰というのはいずれかの歴史の一つであります。この自分の歴史の一つとして肝に銘じて家族のある方はこの事を是非伝えて下さい。この地に職を受けて、又地場産業として自分の歴史として大変名誉である事を認識して戴ければ

大変有難い事だと思えます。

それではこれより表彰式に移ります。そして開会の辞が佐藤副支部長によって述べられ、続いて田島支部長が次のように挨拶しました。「只今、ご紹介頂きました京橋支部長を拝命しております田島でございます。本日は京橋支部内事業所の永年勤続従業員表彰式に当りまして区から矢田区長、東印工組から田島副理事長、工団連から小葉副会長の皆様にご来場戴き誠に

有難うございます。本日は御名の勤続者を表彰

申し上げるわけですが、雨の中を多くの方がご来場下さいまして厚く御礼を申し上げます。ご承知のとおり東印工組22支部の中でも当支部は最大の勢力を誇っております。その生産額につきましても上位を占めています。又中央区の地場産業としても、製本を初めとしまして印刷関連業がトップに立っているという次第でして、これらを踏まえまして、各企業を繁栄に導いておりますのは本日表彰をお受けになる皆様方を始めとして従業員の方々の賜物と、私共は深く感謝しております。

現在いろいろ人手不足等の問題もありますが、地域再開発のためにも、支部としましては全力を挙げて真剣に取り組んでおり計画しています。中央区の地場産業としての位置付けとしましては今後共しかりとやって行きたいと思っております。

又京橋支部の他に国民金融公庫さんが従業員の育英資金について各事業所へ融資枠10万円まで引上げ貸出すとの事も聞いております。当支部としましては今後増々、多様化する情報活動の中で、そこに占めます印刷の地位が、種々のメディア(媒体)の中でも、重要なものになって



来るものと考えております。本日ここに 5 年 10 年、15 年の各勤続者の方々を表彰申し上げる訳ですが、表彰状に添えまして僅かではありますが、図書券をお贈りしますので、秋の夜長の読書、研鑽にご利用戴きたいと考えております。どうか体に気を付けて、会社のためにも仕事にご精励下さいます事をお願いしまして、お祝いのご挨拶と致します。本日はお目出度うございました。」と結びました。

表彰式に当って、司会者より式次第に当日受彰された方の名前が記されてますので、次の 3 名の方へ、まず 5 年勤続者 50 名を代表して、オカムラ印刷(株)三上秀秋氏、同じく 10 年勤続者 53 名を代表して高千穂印刷(株)上原寿行氏、15 年勤続者 27 名を代表して、秀英堂紙工印刷(株)、松本博行氏がそれぞれ壇上にて、田島支部長により表彰状が朗読されて手渡されて、拍手の内に終了しました。表彰式に続いて来賓の挨拶へ移り、まず東印工組副理長、田島一様氏は次のように述べました。「ご指名戴きましたので、一言ご挨拶申し上げます。本来ですと塚田理事長がお見えになりご挨拶申し上げるべき所ですが、町用で来られません。代りに私がご挨拶申し上げますが理事長より本日出席の皆様によりよく伝えて欲しいとの言伝ががって参りました。さて只今は京橋支部の永年勤続表彰式が立派に執り行われまして、晴れの表彰をされました方々に心からお祝い申し上げます。印刷業界も急激な技術革新の中で、皆様のご研鑽、ご努力は大変なものであったと敬意を表すと共に業界人の一

人として深く感謝申し上げます。



先程支部長さんのお話しにもありましたけれども、京橋支部は東印工組の中でも最大の支部で永い伝統と実績を持っており印刷組合の中でも中心的な存在でございますし、積極的な支部活動をされています。東京の地場産業として第 1 位の出荷額の規模を持っております。それだけに今後増々期待されています。しかし印刷業のこれからの展望を考えますと、紀元 2 千年には 15 兆円産業になると予測されていますが、印刷業界の置かれている環境は大変厳しいものがあります。増々技術革新も進んで参ります。業際化或いは国際化という事で、他産業或は外国から参入してくる事も予測されます。それに対処するためにも何か対策を講じなければならぬ。本部としまして、新しい時代を生抜く業界計画として中小企業のための東京の印刷ビ

ジョンに取組んでおります。どうかこれらを成功されるべく、皆様方のご協力、ご理解を是非お願いする次第です。本日の受彰を契機に、大いに健康に留意されまして、会社・業界のためにご貢献下さいますようお願い申し上げます。私の挨拶とさせて頂きます。本日はお目出度うございました。」と結びました。

続いて中央区長、矢田美英氏は紹介されて、次のように述べました。「中央区長の矢田です。田島支部長さんを始め皆様方には、日頃大変お世話になっております。感謝御礼申し上げます。本日は歴史と伝統を誇る京橋支部の永年勤続表彰式が行われまして誠に御目出度うございます。表彰を受けられました方々は 5 年 10 年 15 年と永い間、この中央区内の企業でいろいろご苦労をされて成績優秀で他の皆様方の模範となる働きぶりが認められて、栄えある表彰を受けられた事は本当にお目出度うございます。今お話にありました地場産業であります。今お話に問題を抱えているのであります。今後印刷業界が躍進するかどうかは、只今表彰を受けた方々の肩に懸つていまして、今後はどうか更に躍進したいと願うわけです。今区内は高騰した地価問題や後継者難等いろいろの問題を抱え、難問ではあります。克服出来ないものではない。行政としては地域産業を指して商工業の基本計画を策定した所でありまして、これは皆様方の代表を混えて作成されたもので、それに沿ってしっかりと行政側も行っていきたく思います。私も新富町で生れ育ち、今も住んでい

すので、親子二代に亘って皆様方にはお世話になっていきます。子供の頃から可愛がって戴いた方々も身近におられるわけです。そういう訳でこの地場産業も絶対へこたれてはならない。行政側も力を入れますのでどうか皆様方も頑張って、増々元気で活躍されますよう願っています。私の祝辞とさせて戴きます。お目出度うございました。」と述べられた。

来賓の最後に、中央区工団連副会長、小藁忠昭氏が挨拶して次のような要点を述べました。まず中央区工団連では、地場産業である印刷・製本業の振興を図るために、商工業基本計画に基づいて、新しい企画を作成しつつあります。今後、皆様方の企業にもお知らせして、協力をして戴き、印刷・製本を中心とした新しいコミュニティ区域を形成して行く計画です。



した。最後に受賞者を代表して、(株)栄社印刷所の小山昇氏が謝辞を述べて表彰式を終了した。引続き、祝宴に入り、京橋支部顧問の石澤幸氏が乾杯の音頭をとって、高々と杯を挙げて乾杯、一同これに和して、和やかに歓談に移りました。二基の大テーブルには、盛り沢山の御馳走が並べられて、受彰者も大いに満足のようにでした。7時30分には、帰路を急ぐ方々も出られて、7時30分、久保田顧問の音頭で中締めを行い、皆さん、賞状、記念品を手懐け、中央会館をあとにしました。(岩本)



次に中央区の補助で、工団連では新しい技術(コンピュータ機器の研修等)の技術修・取得に対して、商工課を通じて、1人5万円の補助(1回につき)をしようという制度が出来ました。皆様の会社での研修を対称に補助が出来ますのでこの制度を活用されるよう、事業主へもお伝え下さい。」と工団連の活動について述べた。







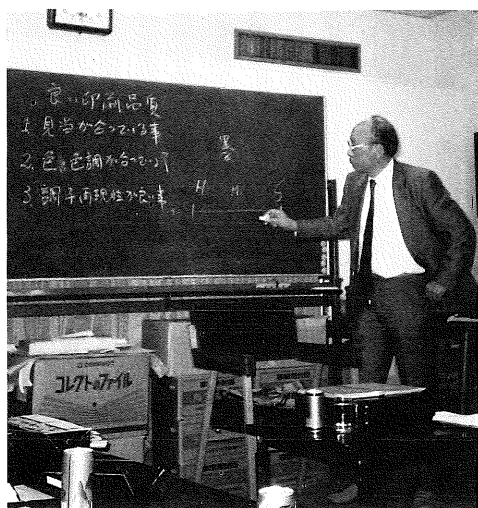
京青会10・11月研修会

京青会では10月16日、18時30分より京橋支部会議室にて、(株)文祥堂の鎌野亮二取締役でもある、日本プリンティングアカデミー客員教授による印刷業界の最新印刷技術や東南アジア各地の印刷業界状況についての豊富な話題を拝聴致しました。先生は多年に亘りJICA及びビジネスの専門家として、海外での印刷・製版技術指導にあたられ、現在は文祥堂にて工務・工程管理分野にて指導されています。約18名出席。

11月13日(水)、18時30分より支部会議室にて、



京青会11月研修会に、日本印刷学会出版部代表取締役の山本隆太郎先生をお招きした。「コンプリント会議は、5月26日から3日間、スペインのマドリッドで開催、今年で5回目で各国から540人來場した。テーマは世界市場の再形成で約300名が講師又はパネラーとなって、それぞれの意見が発表された。又、プリント'91は9月4日から11日迄、米国のシカゴで開催され、出品社数800社、参観者数10万人中で目にしたものはマック、なかったものはオフセット校正機、版下作成関係機器、断裁機、製版カメラ、電算植字機等であった。このことはDTP、スキヤナ、オフ輪等の時代の流れを表わしているといえる。一方では名刺、レターヘッド、グリーティングカード等のサンプルも多く出ていた。等の話をスライド映写もまじえて判りやすく説明して戴きました。20名出席。



## 顧問・相談役・参与の会

8月26日(月)、支部顧問・相談役・参与の会が八丁堀あわやにて、5時から行われました。当日は、暑さの残る中、役員5名を含む21名の方々が出席されて、近藤副支部長の司会で始まり、田島支部長が挨拶のあと、当面の課題である、日本橋支部との合併問題に触れて、6月26日の長寿者の集いで、日本橋支部から、近い将来に一緒になる事を前提とした挨拶があり、それを受けて、次期執行部での合併を考えたいが如何でしょうか、先輩各位のご意見を拜聴させて頂きたいと述べて、顧問各位の発言を求めました。

その中で、過去にはいろいろ経緯もあったが、日本橋が希望するのなら異議はない、行政区側でも一つの方が望ましいとして、今後の出方をまっとう共に、話合っていく事で了承されました。そして次期役員の選出についても、本年中に支部長候補者を内定するようにしたいと述べました。次に中央区工団連印刷・製本分科会による、印刷関連を中心としたサテライトビルの建設を中央区へ働き掛けてゆく事を企画推進しており、2、3年後を目標に、是非実現へ漕ぎつきたいとの報告も行われました。

このあと懇親会へ移り、久しぶりの親交を深めて、和気あいあいの間に、二時間を過ぎて、午後8時お開きとなりました。



「敬老の集い」 於・明治神宮参集殿

九月十二日(金)、明治神宮参集殿にて、10時半より行われました。京橋支部より7名の方が出席されました。写真前例右から安西一誠堂印刷



安西定治氏東京開拓社加藤秀氏、(株)永和堂神田半三氏、(株)白橋印刷所白橋龍夫氏(株)昇寿堂瀬戸昇之助氏、(株)明興社印刷所佐藤富次郎氏、(株)相互美術印刷本社小倉武治氏の7名が出席されて、長寿を祝われました。厚生担当副理事長の田島一弥殿、前副理事長の小宮山顧問、田島支部長、大橋厚生委員をまじえて記念写真を撮影されました。本年度77才以上の長寿該当者326名の内、京橋支部からは35名を数えて22支部の10%にのぼり、まずはお目出度いことです。

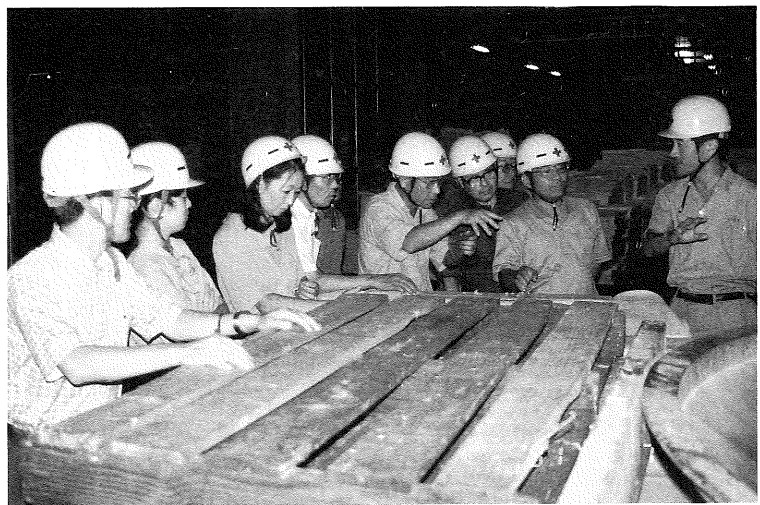
# 地区だより

月島地区

## 巴川製紙見学会

9月7日(土)、月島地区会は恒例の年一回の見学旅行会を開催しました。当日は朝から好天に恵まれて、午前9時定刻に総勢13名が豪華サロンカーに勢揃いして出発、車中で安信印刷工業(株)石井幹事が本日の日程を説明、室田地区長の挨拶のあと、厚木で渋滞の東名高速を避けて、高速1号線を一路南下、横浜を過ぎる迄はスイスイと行きましたが、戸塚あたりから混み始めたため、茅ヶ崎で休息後、東名厚木インターへと向いましたが、1車線のため珠玉なぎとなり東名に乗る迄に12時になってしまい、かえって遅くなったようでした。東名高速は比較的順調に行き、遅れを戻すためノンストップで一路、富士川S・Aへと走り、一旦、高速を出て昼食場所へ辿りついたのが2時頃で、食事後又、東名に戻って一時間で静岡I・Cを下りて、見学先の巴川製紙へ3時30分に到着、早速説明もそこそこ工場を見学、原料は酒のしぼりカスのようなウエット状の柔らかなパルプを溶かして、パルパーに水を加えてドロドロにし、リファイナー(連続叩解機)で、30分―3時間かけて繊維を細かくして、濃度を調節した後除塵機にかけて遠心力で塵をとり、スクリーンを

通しても取り、その後、長網抄紙機や円網抄紙機にかけて、紙の繊維がタテ、ヨコに絡みあうように振動させながらローラーの上を通して脱水する、こうしてプレスロールに巻き取られて次に蒸気ロールで、50℃―120℃の温度で乾燥し巻取られて製品となる。同じみの製紙工程ですが、この工場で作るのは、特殊用紙が主で産業用紙(絶縁紙、加工用紙、クラフト紙)、情報用紙(統計カード用紙、OCR用紙、オンライ用紙、印刷用紙(超軽量印刷用紙、トレッシングペーパー)等)でした。いわゆる高級紙しか作ってないという事でした。3交代で350名の人々が働いており土、日曜も稼働するとの事でした。超高級紙等は検査も念入りに調べていました。検査係は皆女性が作業していました。見学後、再び説明会場に戻り、質疑応答のあと、冷くあまい玉緑茶で喉をうるおした後、おみやげに煎茶を1缶頂戴して、一時間で辞して一路、浜名湖へと再び東名高速にのって急行しました。そして6時前に、今夜の宿である館山寺温泉、堀江の庄へ到着、浜名湖へ落ちる、きれいな夕日をゆつくりと眺める間もなく、あわただしく風呂へつかった後、6時半から、バスの運転手さん、ガイド嬢を含めて総勢15名の小宴会が始まりました。海、湖沼の魚貝類には、名物うなぎの蒲焼きの焼きたてを地酒の味を染しみながら戴くのは浜名湖ならではの風情でした。お酒も入ったところで、カラオケの出番となり、年令のせいかな、なつメロのオンパレードとなり、旅館の用意したカッラで仮装してのカラオケは一



段と熱が入り皆さん若い女性のお酌でございけな一時で過ぎました。翌日は朝から雨模様で、朝食後、9時30分に出発、近くのフラワールンドに寄って広い敷地内の草花を觀賞、温室では各種のランや熱帯植物を約一時間見て廻りました。再びバスで雨の東名を一路沼津へ向い、7時30分沼津I・Cを出て昼食をドライブインで早くに済ませて、おみやげ店へ寄って、皆さんおみやげを沢山買って、再び帰路へつきました。



帰路は、所々で渋滞はしたものの、港北I・Cまでノンストップで走り、都内へ入ってからも順調に走り日曜日には珍しい位にすいていました。台風予想で車の出が少なかったようです。無事4時30分に月島着、皆さん疲れも感じさせずに運転手さかやガイド嬢にお礼を言っていました。

(岩本)

### 築地地区

## 互友会の研修旅行

富士の写真それに吉田南工場見学

9月27—28日

七十八号の地区だよりに「旅に出て一番気になるのは雨である。」と書いたが今回の研修旅行はこの雨にしてやられたと云っていいだろう。台風をまともに喰ったからである。毎度のことながら熊谷印刷前を出発する。参加二十名。定刻である。遅刻者がいなかったということだ。出がけは雨の心配はなかったが東京高速を順調に走るうちにポツポツ始まった。金曜日の下りとあつてすこぶる調子が良い。サービスエリアも時間どおり休憩したが昼めし時になってチョンボが起った。清水インターを出た所で昼食の予定が、どういふ訳か吉田インターまで足を伸ばしたことになる。インターの近くだということである。探すがそれらしき店はない。かなり奥まで進んだところで、これはおかしいぞということになり、電話で確認したところ大チョンボだということがわかった。年輩のガイドは平謝りであった。それはそうだろう。しかし文句は云わなかったがみな空腹だったことを口にも出さず、ニコニコしていたから互友会員は大人であると思った。今回は田島支部長を招待していたから今竹地区長はかなり神経を使っていたかも知れない。この大チョンボはこれで終らなかったの幹事諸候には気の毒であった。し

かし、急遽ユーターンして清水インターまで戻り、昼食をすませて気持を落ちつかせる。そして一路富士フィルム吉田南工場へとバスは北に走った。

### ◎世界がうなった吉田南工場

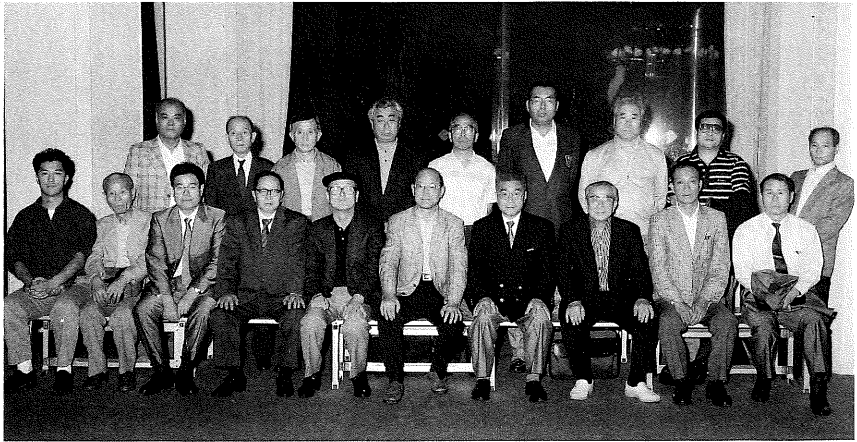
約束の時間が遅れたことも気になったが、雨が本降りになったことも同様であった。玄関で多田工場長らの出迎えを受け、早速コンベンションルームで説明を受ける。まずビックリしたのはP・S版の世界的工場であり、このP・S版生産システムと製造機能が近代技術の粋を集めた工場であるということだ。レクチュアとビデオによる証明である程度頭の中の準備運動をして工場内を見学することになった。白衣とヘルメットで武装？し、玄関でまず記念写真を撮る。富士フィルムだから写真はお手のもの。専属のカメラマンがいるのだ。そうしたサービスは見学者に対し当り前のように対応していた。再び雨の中を現場に向う。

この工場は、昭和49年にこの地に10万坪の土地を購入、生産を開始。同56年は一ラインを増設し、計二ライン。この他研究室で新製品開発をしている。工場が大きくなったのは半導体の性能が極めて良くなったからだ、という説明に納得。一ラインが300メートルあり、この長さが世界をアツと云わせたとか。生産は24時体制で三交替のシステム。従業員は670名1年間53週連続して機械は動いているという。夏と正月に各一週間休みがあるだけという。スタッフは70名



で運営。しかし、吉田町はうなぎの養殖場が地場産業であり、こうした化学薬品を使う工場設置は大きな問題が横たわっていた。そこで工場側としてはその対応として安全・防費・公害を出さない工場とするため、地元と事前協議した結果、大井川への流水口には鯉を飼い、その鯉の泳ぐ状況を24時間テレビカメラで監視するシステムで生産しているという。その辺は我々印刷工場を経営する者にはよく理解できる話であった。文明の発達と技術の向上は公害を生み、地球環境の破壊につながるので最大の神経を使ったようだ。

工場内はスリッパに履き替えて案内してもらう。案内は若い女子社員である。全員にイヤホーンが渡されているから聞きのがす事はない。しかし、工場へ入ったとたん、昨年の研修旅行先の「日本加工製紙高萩工場」のラインを思い出した。紙とアルミの違いではあるが行程は似ている。P・S版は5トンのアルミを6メートルに伸ばした表面を砂で凹凸を作り、順次表面を処理しP・S版となる仕組みである。文章なら簡単だが、途中ゴミや空気の問題もあり、その精度の高い商品を作るには現像外である。ポジとネガの割合は65対35でポジが多い。歴史的フィルムに50年、P・S26年という。しかしこのP・S版工場は全く新しい商品を作り出すために、機械やラインを一つひとつ研究しながら発注したので完成までに6年もかかったという。そして、最後に「印刷の将来は高度な方向に向っている」というメーカー側の言葉を脳裡



築地互友会 平成3年9月27日 御前崎サンホテルにて

にきざみ、彼等の研究によって我々印刷業界が更に発展することを祈り乍ら雨中の工場をあとにした。

◎台風の中を一路御前崎ホテルへ  
雨足は更に激しくなった。九州へ台風が上陸する、しないの雲行きの中、その影響が御前崎

にまともに出ていた。燈台の真下のホテルだから南の強い風と高い白波が岸壁をたたきつけている。部屋は海側だから沖の白波のくだけ散る姿がもつとよく見えた。台風の不安を抱き乍ら風呂に入り楽しい夕食へと進むハズだったが、ここでチョンボが二つ出たのである。一つは注文した料理が出なかったこと、一つは芸者替りのコンパニオンが用意されていなかったことだ。一寸考えられないチョンボであったわけで幹事諸侯の胸中を察する次第。その替りバスのガイドさんが昼めしの穴埋めとばかり気をつかい、汗をかきかきカラオケの手伝いをして呉れた。結局田島支部長を始め全員がカラオケのお世話になった。翌朝は雨も上がり、まずまずの出発日和となった。ホテル側からチョンボのお詫びにおみやげをもらいホテルをあとにする。

#### ◎登呂遺跡と、とろろ汁

昨日とは違って変わった空の下を快調に飛ばす。昨日の雨がウソのようだ。静岡インターを出て登呂遺跡へ。私は初めての見学である。確か戦後間もなく20年代前半に登呂遺跡の発掘調査の報が新聞に出ていたのを思い出した。しかし当時は食料難の時代で遺跡より腹の中を埋める方が先だったのである。今から思えばはずかしい話だ。遺跡見学で迷子が出た。出発時間をはるかにオーバーしている。幹事は一所懸命になって探している。その本人は遺跡資料館の中で土器の修復や当時の原型作りの人と夢中になって話し込んで時間を忘れてしまったのであ

る。その張本人は私だったのである。汗顔の至りである。

昼めしは東海道五十三次で有名な丸子の宿の元祖「丁字屋」のころの汁である。創業は慶長元年。旧東海道添いにあり今なお昔の姿をとどめているのがすばらしい。電話番号も気に入った。五八—一〇六六（御飯はとろろ）。奥の二階で一同とろろ料理をたつぷり味わう。400年近い間、同じとろろ汁を売っているのだからまさにギネスブック物である。この見せは今後も長く残したいものである。文化遺産だからだ。予定の研修旅行はこうして有意義なうちに終りを遂げ、四時過ぎ築地にて解散。（近藤記）

## 支部の動き

7月4日（木）本部支部長会（15時—17時）印刷会館

7月12日（金）部長・監査・地区長会（11時—14時）於・支部室

### 1、本部事業についての協議事項

- ・東京文化典事業への協力について
- ・事業者台帳調査票の回収について

### 2、報告事項

- ・火災共済自動車保険第一次（7—8月）増強運動について、重点支部京橋・文京
- ・全印工連優良従業員表彰（勤続30年）
- 3、当面する支部事業について
- ・永年勤続従業員表彰式について、10/9

（水）、中央会館の予定

- ・顧問・相談役・参与会の開催
- ・次期役員選考委員会の開催
- ・その他、委員会報告等

7月15日（月）本部理事会（15時—17時）健保会館

7月23日（水）京橋電気安全協会（11時—13時）

7月23日（水）関東地区協議会（14時—17時）

7月28日（日）中央区商工業ソフトボール大会（8時30分—17時、京青会チーム出場）

7月31日（水）東印政連との懇談会（18時—20時）田島支部長他出席

8月9日（金）中央区工団連印刷製本分科会（17時—19時）、地域開発地場産業振興を協議

8月26日（月）顧問・相談役・参与の会（17時—20時）於・あわや、支部運営について協議

8月28日（水）中央区工団連印刷製本分科会（17時—19時）、地場産業ビルの建設企画

9月9日（月）部長・監査・地区長会（11時—14時）於・支部室

### 1、本部事業についての協議事項

- ・東京印刷文化典事業への協力について
- ・「労働時間短縮」「東京の印刷産業ビジョン」説明会について、9/3、10/1
- ・事業者台帳の集計に基く第3四半期の賦課金請求について、昨年提出の台帳により、増収となる。

・「敬老の集い」「永年勤続従業員表彰」の実施について、9/12明治神宮、11/9新橋演舞場

2、報告事項

- ・全印工連「労災保険上乘せ共済制度」の実施について、11/12発足、募集中

・平成3年度印刷文化典、全国大会関係表彰者について

・企業実態調査について

3、当面する支部事業について

- ・永年勤続従業員表彰式、10/9日（水）、中央会館、受彰者128名、顧問・相談役・参与・役員は会費8千円
- ・日本橋支部との合併問題について
- ・中央区工団連印刷・製本分科会による、サテライト（多目的）ビル建設企画推進
- ・その他委員会報告等

9月12日（木）本部敬老の集い（10時30分—13時）於・明治神宮、京橋支部7名出席（77才以上）

9月17日（火）工団連印刷製本分科会（17時—19時30分）、日本橋、京橋、軽印刷、製本

9月19日（木）東京印刷文化典記念パーティ（18時30分—20時）於・ホテルオークラ、京橋支部から10名出席（割当て23名消化）

9月20日（金）印刷文化典国際シンポジウム（13時—17時30分）於・東京会館、京橋支部より5名出席、終了後、懇親会

9月20日（金）全印工連全国大会（13時—17

時)表彰式、懇親会等に約500名出席、田島支部長出席、京橋支部、高千穂印刷(株)小山英美氏が組合功労者賞を受彰

10月3日(水)本部支部長会(15時-17時)於・印刷会館

1、本部事業推進について協議事項

・「労働時間短縮」説明会、本部第1回90名、第2回、65名参加、支部開催予定

・「東京の印刷」表紙の支部別担当について、来年も継続する

2、報告事項

・日印産連・印刷文化典記念パーティ出席者への記念品配布、369名中99名欠席

・「全国戦災者慰霊記念碑建立の会」、「雲仙災害復興基金設立」署名運動結果、記念碑4支部153名、雲仙署名7支部125名

・東京都知事表彰、山岡景恭氏、黄綬褒章受彰、有賀久吉氏

・「企業実態調査」中間報告1825社65%回収

・「電子編集機の選択」(構改事業)紹介

10月7日(月)次期役員選考委員会(14時-17時)於・支部室、田島支部長他7名出席

10月9日(水)永年勤続従業員表彰式(18時-19時30分)於・中央会館、受彰者132名、式次第、司会・近藤副支部長

開会の辞、佐藤副支部長

挨拶、田島支部長、表彰5年10年15年代表来賓挨拶、東印工組副理事長田島一弥殿、中央区長、矢田美英殿、中央区工団連副会長、小栗忠昭殿

謝辞、(株)久栄社印刷所、小山昇殿

閉会の辞、中山副支部長

祝宴、乾杯、石澤顧問殿

中締、久保田相談役殿

10月21日(月)工団連印刷製本分科会(17時30分-19時30分)於・支部室、田島支部長出席

10月25日(金)京橋電気安全協合理事会(11時30分-12時30分)於・京橋消防署

11月7日(木)本部支部長会(15時-17時)於・印刷会館4階、田島支部長出席

11月9日(土)本部永年勤続従業員表彰式(10時-12時)於・新橋演舞場

11月11日(月)中央区工団連印刷・製本分科会(18時-19時30分)於・支部室

### 菊と桜と日本人

日刊食料新聞 10/28日付

▼菊の季節である。昔は旧暦の九月九日(五節句の一つ、陽数が二つ重なるところから重陽の節句ともいった)を菊の節句と称し、武家も町家も菊見を競った。▼菊といえば反射的にピンとくるのがサクラである。日本を代表する花がこの二つだからだ。とはいっても、菊とサクラはあくまでも対照的だ。さくらを「陽」とするならば菊は「陰」ともいえる。▼サクラは「華麗」とその散りぎわのいさぎよさ「が身上である。散るを惜しむはサクラを愛するゆえんにあらず」というわけである。戦時中の「予科練の歌」「同期の桜」は「散華」の礼賛であり、また「死の美化」でもあった。つまり、サクラは「散り」にすべての美学が求められたということである。大和心の象徴

11月12日(火)部長・監査・地区長会(11時-14時)於・支部室

1、本部事業推進について協議事項

・'91新春のつどい開催について、1月13日会場・椿山荘、会費1万3千円

・総代・役員改選について、現総代は来年3月で辞任、新総代を選出、新役員と任期を揃える

・賦課金算出に於る設備指数の変更  
製版設備の指数を現行より60%に減点し平成4年第1期分より適用する

・本部役員の支部会合への出席について、各支部の総会へ年1回、支部周年記念等特別企画へは出席する

・時短講習会への参加届けを提出する。

といわれながらも、婚礼衣裳(うちかけ)にツバキとともにその柄模様を忌み嫌われるワケも、あまりにあつけない、「枝わかれ(散り)」「にはかならない」▼一方の菊は、「重厚」「さが身上である。サクラの「散り」とは正反対に、「興す」「役割を果たしてきたのも面白い。楠公の「菊水」にしても、また明治維新の「錦のみ旗」にしても、菊のご紋は常に新しい世の中を興す象徴であった。もともと、大東亜戦争の場合はサクラの「散り」に足並みを揃え、軍艦のヘサキのご紋章も、また三八式歩兵銃のご紋章も、興すどころか国を亡ぼすんだ役目を負うことになったのだが▼だからといってサクラの「陽」と菊の「陰」が完全に消滅したというものではない。サクラと散った戦没者の靖国神社に、十六瓣の菊を染め抜いた帳簿が吊られているサマは「サクラの不始末を菊が尻拭いしている」ような、そんな気さえおぼえさす▼菊の季節、ああ、感ありである。 (妙竹輪)

2、報告事項

- ・安全衛生推進者養成講座、休止
- ・火災共済 2・3 次増強運動重点支部 豊島・墨東の 2 支部

3、当面する支部事業について

- ・新年臨時総会開催について、1 月 24 日(金) 18 時、中央会館、会費 1 万円(支部員)
- ・式次第 司会 近藤副支部長 佐藤副支部長
- 閉会のことば 田島支部長
- あいさつ 田島支部長
- 議題、次期役員選考経過報告 石沢委員長

来賓挨拶、東印工組副理事長田島一弥殿

中央区長 矢田美英殿

工団連副会長小葉忠昭殿

閉会のことば 中山副支部長

・新年宴会 進行 小倉・石井副支部長

あいさつ 田島支部長

関連業界代表挨拶 製本・京橋支部長

城所虎雄殿

乾杯 京橋支部顧問 石沢 幸殿

中締 京橋支部顧問 斎藤喜徳殿

・その他、委員会報告

・中央区工団連印刷・製本分科会による、

サテライト(多目的)ビルの建設企画を

区へ要請、働きかけを行う。

11月13日(水) 新川地区町づくり協議会(18時

〜20時) 於・新川区民館、伊坂地区長出席

11月20日(水) 次期役員選考委員会(14時〜16

時) 田島支部長他 7 名出席、於・支部室

11月21日(木) 本部理事会(15時〜17時) 於・

印刷健保会館、田島支部長他出席

11月28日(水) 次期役員選考委員会(14時〜16

時) 於・支部室、田島支部長他 4 名出席

支部員の異動

・加入組合員

(株)トープロ、斎藤弘之氏、入船 2-9-5、

が加入されました(2 年 12 月)

湊地区、小暮印刷箔押所、小暮欣也氏、湊 3

1-9-5、が加入されました(3 年 8 月)

・脱退組合員(3 年 8 月〜11 月)

三好印刷(株)、三好徹殿が脱退(新川地区)、

(有)大沼商店、大沼善作殿が脱退(新川地区)、

靖昌堂印刷(株)、小野田範雄殿が脱退(新川地

区)、(株)エレコス、高橋茂殿が脱退(新富地

区)

社名変更

・(株)エーピーアイ(新川地区旧名朝川印刷社)

お悔み申し上げます

▼新川地区中庭印刷(株)社長令夫人、中庭操殿が

御逝去されました。(9 月)

▼八丁堀地区信濃印刷(株)社長、児玉正己殿が御

逝去されました。(10 月)

▼新川地区三秀(株)社長御母堂、堀江セツ殿が御

逝去されました。(11 月)

▼湊地区文行堂印刷(株)社長、斎藤泰次郎殿が御

逝去されました。(11 月)

編集後記

今年も早や一年を過ぎる時期となり、仕事に、  
雑事にと慌ただしい毎日です。

さて今月号は、地区だよりで築地・月島地区  
の見学旅行記が寄せられました。担当地区で  
ある八丁堀地区の記事がなく、さみしい限りで  
す。八丁堀地区では地区長さんが熱心に地区会  
を月 2 回も開いたりして、かなり熱心に勉強し  
ておられるようです。月に一度も会合のない地  
区もあり、各地区によって大分差があるよう  
ですが、地区活動状況をぜひお知らせ下さい。

本号の表紙には、勝どき橋際の倉庫跡に新築  
された(株)ニチレイの東銀座ビルより、入船・湊  
方面を撮ったもので、聖ロカの新築病院も完成  
してその偉容を誇っています。手前は社会福祉  
会館ビルです。今度、中央区工団連で企画した新  
しい地場産業振興の多目的ビル(住居事務所、  
工場等の集合タワービル)は数年後を目標に実  
現すべく、今中央区へ働きかけを行ってますが、  
これが具体化すると、旧聖ロカの裏手にある二  
中跡地へ建設される可能性が期待されています。  
場所的にも入船・湊地区を佃大橋通りを挟んで  
すぐ傍にあるので、地の利にこれ以上の所はあ  
りません。人手不足、住居・工場地難を克服する  
一石二鳥の企画となる予定で、印刷・製本業を  
主として地域産業にとって起死回生の方策では  
ないでしょうか。区にとっても夜間人口回復の  
キメ手になると思われます。

(岩本)